

# 東日本大震災から1年

## 防災訓練を実施

平成23年3月11日に発生し甚大な被害をもたらした東日本大震災以降、市民の災害に対する関心が高まっております。

つるま市では、1月20日、市民の地震、津波防災の意識高揚と避難方法などのあり方を検証するため、市内全域を対象にした「地震・津波の防災訓練」を実施しました。

訓練は、沖縄本島南西沖を震源とする震度5強の地震が発生し大津波警報が発表されたことを想定して行われ、海拔30m以下にある保育園、幼稚園、小中学校など41施設の子どもたちが、高台にある避難所や高い建物をめざし徒歩で避難しました。

今回の訓練では、避難所までの距離や避難時間など様々な課題がみえてまいりました。このような課題を一つ一つ検証し、最善の避難方法について、関係者で検討をしたいと考えております。



避難所を目指す子どもたち

## 世界で発生する地震の割合が日本で

世界全体で発生するマグニチュード6以上の地震の実に約2割が、日本で発生しています。

日本に暮らす限り地震・津波災害にいつ遭遇してもおかしくありません。地震が少ないと言われている沖縄でも、近海では頻繁に地震が発生していることから、地震や津波に備えるのは当たり前と言えるのではないでしょう

か。

実際に、今から241年前の1771年に発生した「明和の大津波」では先島諸島において、約1万2千人の命を奪う大災害がありました。特に石垣島では、海岸から内陸へ津波がかけ上がった高さが30mに達し、当時の人口の約半数が犠牲になったといわれています。

## もしも地震が発生したら

### ①揺れがおさまるまで身を守る

上から落ちてくるものなどから身を守りましょう。怪我をして歩けなくなってしまうために逃げる事ができず、津波の犠牲になってしまったという例もあります。まずは焦らずに身の安全を確保してください。

揺れがおさまったら使用中の火を消し、ガスの元栓を閉めましょう。

### ②急いで避難

津波が見えてから逃げても間に合いません。また、津波警報が発表される前に津波が襲来する場合があります。強い地震や長い時間、揺れを感じた場合は、隣近所に声を掛け合って、急いで高台など安全な場所に避難しましょう。

### 【遠い所より高い所へ】

海岸から遠くに離れることが大切です

すが、津波の来襲が早く、高台などへの避難が間に合わないようなときは、できるだけ高くして頑丈な建物の上の階(3階以上)に逃げましょう。

### 【原則徒歩で】

車での避難は、渋滞に巻き込まれ、身動きが取れず津波の犠牲になってしまふ例もあります。歩けない人がいる場合など明らかに車で避難したほうが良い場合を除いては、徒歩が原則です。

### ③正しい情報入手する

ラジオ、テレビ、防災無線などから正しい情報入手し、デマなどに惑わされないよう落ち着いて行動しましょう。

## 日頃から備えて

地震、津波を「正しく恐れ」、日頃から地域で、職場、学校で、そして家庭で避難訓練を行いましょ。また、「いざー」という時に、素早く確実に避難できるよう、非常持ち出し袋の準備や避難経路などについて話し合っておきましょう。

ホームページでも「つるま市防災マップ」がみられます。

<http://www.city.uruma.lg.jp/soumu/bousai/index.html>